

2016年 陸内協賀詞交歓会 会長挨拶

一般社団法人 日本陸用内燃機関協会
会長 荻田 広

新年あけましておめでとうございます。

平成28年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、平素より当協会にお寄せいただいておりますご支援とご協力に対し、まずもって厚く御礼を申し上げます。

また、関係官庁並びに関係機関の皆様には日頃より格別なるご指導を賜り、また本日、公務ご多忙の中、ご臨席を賜り併せて御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、日本経済は前半こそ着実に回復基調を続けていましたが、後半には中国経済の減速や資源国、新興国の下振れリスクの顕在化で、景気回復の方向性は定まらなくなった、そんな一年となりました。内閣府の月例経済報告でも、今年の8月からは「景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている」との判断を12月まで4か月連続で据え置いています。

一方、昨年の後半は私共にも関係が深い大きな出来事がありました。一つは、排出ガス規制に絡んだとんでもない不正事件の発覚です。勿論、私共が作る陸用エンジンの信頼性に揺るぎはありませんが、企業の社会的責任が大きく問われた年でもありました。そしてもう一つがCOP21です。世界中の国と地域が集まり、地球規模での温暖化対策が議論され、画期的となる「パリ協定」が採択されました。環境とエネルギー対策はますますその重要性が高まりました。

次に、私共の陸用エンジンの昨年の生産状況ですが、平成27年1月から9月までの実績が出ております。国内と海外を合わせた生産台数は、ディーゼルエンジンが138万台、ガソリンエンジンが929万台で、これにガスエンジンを加えた総生産台数は1,073万台となっております。この台数を単純な比例計算で年間の台数を予想しますと1,431万台となります。これは前年実績の1,428万台を上回るレベルとなりますが、残念ながら毎月のトレンドは7月以降が対前年比でマイナスに転じており、年間では前年を下回ることがほぼ確実な状況となっております。

その内訳ですが、ディーゼルエンジンは過去最高であった平成26年の185万台に近い生産を続けておりますが、やはり前年を越えるのは難しいようです。また、ガソリンエンジンは国内と海外生産のいずれもが減産しており、前年同期比で2%のマイナスとなっております。なお、海外生産比率は、ガソリンが80%、ディーゼルは26%でいずれも若干ですが上っております。

次に、昨年 11 月 9 日から 3 日間の日程で行われました、国際内燃機関工業会の第 4 回東京大会について報告します。世界 5 地域から 9 つの業界団体が集まって「排出ガス等の規制に関する基準調和を国際業界団体の立場で推進する」という取組みを進めております。一昨年のシカゴ大会に続き、1 年を掛けて延べ 30 回を超える電話会議で議論を重ね、漸く東京大会を成功させることが出来ました。陸内協は、日本の代表としての責任を果たすことが出来たと考えております。

これまで私共が手掛けてきた陸用エンジンは、我が国の建設機械・産業機械・農林業機械・発電機などの動力源として発展し、環境対応をはじめとする様々な社会ニーズの変化に的確に応えることによって成長を続けてきました。我々陸用エンジン業界が我が国の産業の中核として、今後も活力ある経済社会実現のため、その牽引役を果たしていかなければならないと確信しています。陸内協としましても、その責務をしっかりと果たし続けていく所存です。

最後になりましたが、本年が皆さま方にとりまして良い年でありますよう心からお祈り申し上げますとともに、ますますのご発展とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。